



今回は被ばく線量の確認、出力方法についてまとめましたのでご参考にしてください。

■被ばく線量の確認方法

①スキャン計画中

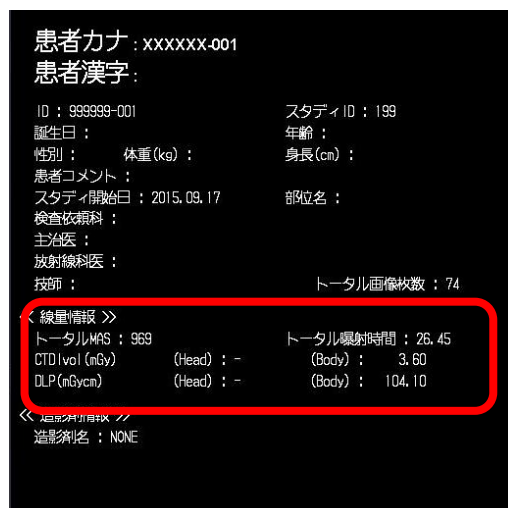
[被ばく]タブをクリックして、CTDIvolやDLPの値を確認します。
Volume ECを使用している場合はスキャン撮影後に表示されます。
※[その他] タブで表示されている場合もあります。

②スキャン後

サマリーで確認します。



①スキャン計画中 ([被ばく]タブ)



②スキャン後 (サマリー)

■サマリーを手動で作成したいときは

- (1) 患者登録画面中[照射録]をクリック
- (2) サマリー作成したい患者をリストから選択
- (3) [サマリー作成]をクリックします



■照射録リストの保存期間を変更するときは

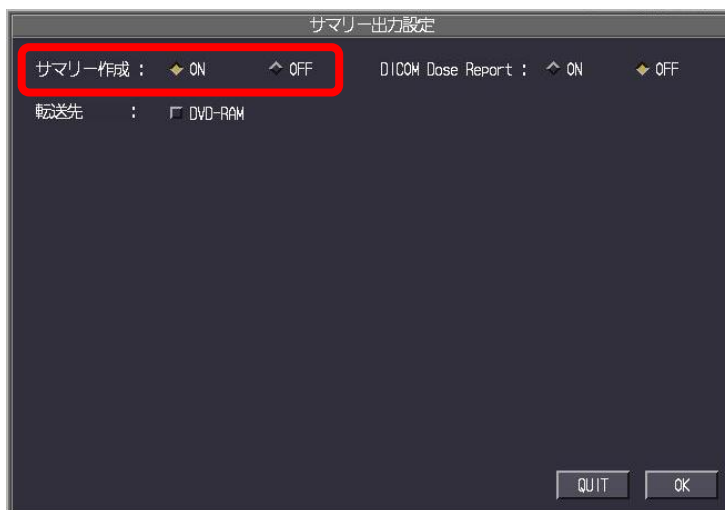
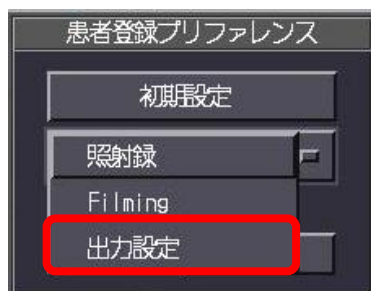
(デフォルトは1日以前が削除の設定になっています)

- (1) [ユーティリティ]→[セットアップ]→[患者登録プリファレンス]を選択 (V4まで)
または、[ツール]→[Engineering]→[患者登録機能] (V5以降)
- (2) [初期設定]→『患者情報の削除』項目で削除する期間の設定をします
- (3) 再起動後に反映されます



■ スキャン後のサマリーの自動作成のON/OFF設定 (V3以降)

- (1) [ユーティリティ]→[セットアップ]→[患者登録プリファレンス]を選択 (V4まで)
または、[ツール]→[Engineering]→[患者登録機能] (V5以降)
- (2) 『サマリー出力』のプルダウンから[出力設定]を起動します
- (3) 『サマリー作成』の項目で『ON』にチェックして再起動



■ サマリーでエキスパートプラン・スキャンごとの線量情報を出力する (V5以降は設定不要です)

- (1) [ユーティリティ]→[セットアップ]→[患者登録プリファレンス]を選択
- (2) 『サマリー出力』のプルダウンから[照射録]を起動します
- (3) 『サマリー出力設定』のウィンドウ右上の[詳細情報]をクリック
- (4) ウィンドウ左上の『詳細情報』で『サマリ出力する』を選択してください

※今回の設定は、いつも以上に装置・バージョンごとに設定・表示方法が異なるため、ご不明な点がありましたら東芝CTアプリケーション担当者までお問い合わせください。



線量マネジメント (Vitrea Op.ソフト)

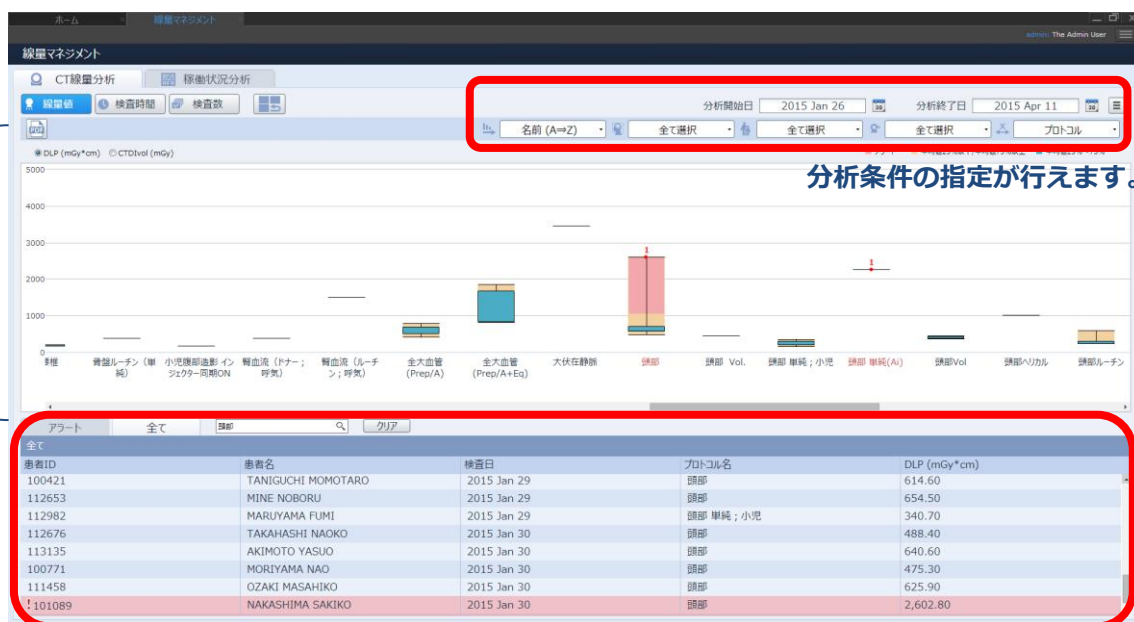
CTからDICOM Dose Reportを受け取って、患者ごとや撮影プロトコルごとの線量を分析したりCTの稼働状況を分析する線量マネジメント (Op.) についてご紹介します。

■ CT線量分析

分析する期間や閾値を指定して、各撮影プロトコルごとに撮影された検査を調べたり、閾値を超えた検査を色づけして表示させたりできます。

閾値を越えた検査をクリックすると、その検査でどんな撮影を行ったのか、撮影条件を確認することができます。

各撮影プロトコル名とそれぞれで撮影された患者のDLP/CTDIvol分布を表示



指定した閾値を超えた検査 (ピンク色の行) をクリックすると、EP名や撮影条件を確認することができます。

※ Vitreaは東芝メディカルシステムズ(株)が開発・販売するマルチモダリティWSです。
※ 上記はV7.0.1での画面で、バージョンにより操作が異なる場合がございます。



線量マネジメント (Vitrea Op.ソフト)

■稼働状況分析

日にちや時間を指定して、CT装置それぞれがどの時間帯にどれくらい稼働したかを確認できる機能です。シフト作成の際の参考などに役立ちます。



※ Vitreaは東芝メディカルシステムズ(株)が開発・販売するマルチモダリティWSです。
※ 上記はV7.0.1での画面で、バージョンにより操作が異なる場合がございます。